

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地方自治・地方行政		
地方自治小六法 令和4年版	地方自治制度研究会(監)	学陽書房
押さえておきたい 公的扶助・生活保護行政	元田宏樹(編著)	ぎょうせい
そ の 他		
令和2年度 文部科学白書	文部科学省(編)	日経印刷
令和3年版 障害者白書	内閣府(編)	勝美印刷
すき間の子ども、すき間の支援 一人ひとりの「語り」と経験の可視化	村上靖彦(編著)	明石書店
地域共生社会と社会福祉	神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科(監)	法律文化社
自然災害から身を守る知恵 気象災害と地震に備える	伊藤佳子・鈴木純子	求龍堂
囚われのいじめ問題 未完の天津市中学生自殺事件	北澤毅(編) 間山広朗(編)	岩波書店
WOODAP 上下水道の未来への処方箋	中村靖	幻冬舎
水道、再び公営化！ 欧州・水の闘いから日本が学ぶこと	岸本聡子	集英社新書
水道が危ない	菅沼栄一郎・菊池明敏	朝日新聞出版



穏やかな秋晴れの日、近所の裏山へ行ってきました。木々の葉は少しずつ紅葉し、地面にはいろいろな形のどんぐりがたくさん落ちていました。調べてみると、どんぐりはブナ科の植物の堅果のことで22種もあるそうです。形や大きさなどが少しずつ違い、今回、私が見つけたどんぐりは、クヌギとウバメガシの堅果であることが分かりました。これまで何気なく歩いていた裏山ですが、ちょっとした疑問から新たな発見につながることがあります。今回の山歩きは、私にとって大きな収穫であったと思います。

さて、紅葉といえば、イロハモミジやオオモミジが有名です。この時期になると「もみじ」という言葉をよく耳にしますが、もみじは植物名ではありません。もみじとは、草木が赤や黄色に色づいた葉のことを言います。また、山や野原が紅葉することを「草もみじ」、紅葉を見に行くことを「もみじ狩り」と言います。

もみじは漢字で「紅葉」と書きますが、これは平安時代からのことで、それ以前は「黄葉」と書かれていたそうです。もみじや黄葉は、万葉集の中でも詠まれています。たくさんある中から和歌山にまつわる歌を紹介したいと思います。

- ・勢能山に 黄葉常敷く 神岡の 山の黄葉は 今日か散るらむ
「紀伊の背の山に 紅葉がずっと散り敷いている 大和の神岡の 山の紅葉は 今日散っていることだろうか」
- ・もみち葉の 過ぎにし児らと 携はり 遊びし磯を 見れば悲しも
「(もみち葉の)死んでしまった妻と 手を取りあって 遊んだ磯を 見ると悲しい」

日を追うごとに紅葉は進んでいきます。昨年の紅葉日は12月14日でしたが、今年はどうでしょうか。和歌山市のシンボル和歌山城。城内の西之丸庭園は紅葉溪庭園(もみじだに)と呼ばれるほど見事に紅葉しますので、ぜひご覧になってください。

